

# 令和7年度 学校関係者評価

中津市立三保小学校

## 1 学校の教育目標

自問して みんなで伸びる三保っ子の育成

## 2 育成を目指す資質・能力

人間関係形成能力

## 3 重点目標・達成指標、重点的取組等

### 評定判断基準

- A …達成率90～100%
- B …達成率70～ 89%
- C …達成率60～ 69%
- D …達成率60%未満

重点目標	達成指標		重点的取組	取組指標	評価	成果と課題、及び次期（次年度）に向けての取組
生きて働く知識・技能の育成	①中津市標準学力調査でC層の児童の割合 ※国語20%以内 ※算数20%以内 ②単元テスト「知識・技能」80点以上の児童を80%	学校	○基礎基本的な学習内容の定着	①授業者は算数の授業で、振り返りや練習問題に取り組ませ、定着を図る。 ②教員は月に一度以上、国語の単元プランに関連した本を紹介し、読書をすすめる。	A	○全国学力調査、県の学力調査において、十分な成果を上げている。三保スタイルという学校の取り組みがすべてのクラスに徹底されていることが要因である。 児童が皆授業に前向きに取り組めている姿がわかる。 児童に対する先生たちの表情も豊かで、子どもをしっかりと見ている。
		家庭	○学習習慣・生活習慣の確立	○勉強時間・就寝時刻が守れるように我が子に声かける。	A	○子どもたちの家庭での生活習慣が、学習に大きく関わっている。学習習慣・生活習慣の確立のために、引き続き学級懇談会等での保護者との協働の取組を続けてほしい。
		地域	○学校への支援活動の推進	○学校の教育活動に、ゲストティーチャーとして学習支援を行う。	A	○学校への協力をしっかりとすすめていきたい。
思考力・判断力・表現力・表現力の判断力・表現力	③「授業中、友だちと自分の考えを比べて考えることができた」と答える児童の割合を85%以上にする ④単元テスト「思考力・表現力・判断力」80点以上の児童を65%	学校	○算数における三保スタイルの授業実践の確実な実施	①算数授業のスタート時に、単元プランをもとに自ら改めての確認ができるようとする。 ②算数の授業で【ペア・グループ学習】【ぶらぶらタイム】など全児童が声を出す場面を1週間に3回以上設定する。	A	○「単元プラン」「めあて」「振り返り」がどの学年にも位置付けられ、取り組めている。ペア・グループ学習も授業の中に設定されており、自分の考えを話す機会が用意されている。
		家庭	○家庭内対話の充実	○保護者は毎日、今日の出来事を子どもに聞く	A	○継続して取り組んでほしい。
		地域	○あいさつの推進	○OGT等は交流やサポートで出会う児童に先手挨拶をする。	B	○地域として「交流」「サポート」を行っていきたい。
学びに向かう力・人間性等	⑤「以前と比べて成長できた」と答える児童の割合を85%以上にする。 ⑥「みんなと力を合わせて取り組めた」と答える児童の割合を85%以上にする	学校	学習や生活の中に、自分や他人を大切にする活動を確立する。	①担任は月に一度、学級活動の中で、自問ノートの内容を扱った指導を、クラスの実態に合わせた形で行う。 ②担任等は人間関係づくりプログラムを月2回以上行う。 ③教員は生活科・総合的な学習の時間で、自らの学びを意味づけたり、学びを友だちと共有したりする「ふり返り」の場面を月1回以上位置づける。	B	○自問清掃の取組での「自問ノート」は自分を振り返ることに役立っている。 ○放課後の過ごし方はどうなっているのか。子ども同士の良い意味での交流ができているとよいが。そういう面でのふりかえりも大切である。
		家庭	○子どものお手本となる言葉遣いの実践	○保護者は「ありがとう」の声かけをする。	A	○継続して取り組む
		地域	○児童の頑張りを認め、ほめる	○OGT等はあいさつに加え、一言プラスの声かけをする。	B	○今後も行っていきたい。
働き方改革の推進	⑦時間外勤務の縮減	学校	19：10施錠の徹底	○週に3回以上、18：45時までに学校を出る。	B	○先生たちが元気でなければ子どもたちも元気が出ない。働き方改革をすすめていってほしい。
		家庭	子ども相談等の時間内の対応		B	
		地域			B	